

幼児の養護について

|| 某講習會における講話の一節、校閲を經す ||

醫學士 青 木 醇 一 述

人間の子供を、他の動物の子供に比較して見ますと、人の子ほど永い間保護を加へなければならぬものはありません。他動物は、生れおちればすぐに自己防禦が出来るように本能的になつてゐます。わづかの時がたてば、ぢきに獨立するのです。しかるに人の子は獨立する迄にはながい間の養護を要します。

とりわけ乳兒期には保護を要しますが、幼稚園に行く頃になつても、まだなか／＼世話が焼けるものです。食物のうつりかはる頃の心遣ひは云ふまでもなく、五歳六歳頃になつては、羅りやすい病氣が澤山ありますから、愛護といふことがきわめて大切なことになつて來るのであります。

○ 幼児と空氣

空氣は生活する上に、寸時もかくことの出來ない

物質であります。しかも、これがまた、きはめて早く不潔になりやすいものであります。誰でも、いつでも、新鮮の空氣を吸ふことが大切ですが、ことに、子供は、不良の空氣の感應により害をうけやすいものですから、氣をつけなければいけません。

空氣中には、いろ／＼の微菌があり、塵埃もなかなか多いのですから、これを吸ふと子供のか弱い氣管や氣管枝の粘膜は器械的の刺戟をうけてこゝに加答兒症にかゝるといふことになるのです。また、不潔な空氣中には、いろ／＼の微菌が澤山にあります。微菌といつても、病原菌と非病原菌とがありまして、實際、幸なことには、後者の方が、前者よりもはるかに多いのです。戸外の空氣になりますと、廣い部分ですから、稀釋されて、一容積中には澤山はありません。しかし、室内では、この量が多いわけですから、ことに、幼稚園や小學校のやうに、一室に多くあつ

まるところですと、塵埃も多く、病原菌も、直接に影響しました傳播しやすいわけです。

その他、多人數あつまる所ですと、どうしても、炭酸瓦斯、水蒸氣が多くなつて、肝心の酸素が減じます。そこで、換氣といふことが、特に必要です。日本風の室ですと、割り合ひに空氣の流通はよいのですが、西洋風のたてかたでは、硝子張りのために、餘程換氣といふことに氣をつけねばなりません。

○幼兒と清潔の習慣

清潔は、衛生の根本でありますから、幼少のころから習慣にしなければなりません。ことに身體の清潔といふことは、幸、我が國では、入浴といふことを屢々いたしますからよいのですが、外國では、費用の關係上、なか／＼はいられないので、どうしても不潔になり勝ちです。觸感の作用といふものは、皮膚が不潔であれば、充分に出來ません。また、新陳代謝の作用、體溫の調節なども、皆皮膚の司るところですから、なか／＼大切な役目があるのです。きたないことを平氣でゐるといふことがないように、よくしつけることが大切です。ことに手は一番不潔

になりやすいものですから、よく洗ふ習慣を養はねばなりません。

○幼兒と日光

日光は、我々の健康上に大なる關係をもつてゐます。人類のみならず、すべての生物にかくべからざるものであることは、今更申し上げる迄ありません。

皮膚に對する日光の作用はどうかと申しますと、これは、かの農夫漁夫などの血色が丈夫そうであるに反し、つねに日光の不足な坑内に作業する鑛夫や坐仕事ばかりしてゐる人達の血色のわるいのを見ても、直ちにわかることです。子供も亦これと同じことで、ことに發育盛りですから、充分に日光に浴せしめることが大切です。

また、精神上にも大なる影響を及ぼすもので、晴天の日は心地よく、雨の日は陰氣におもはれるのは、我々大人でもそうですが、わけて環境に支配されやすい幼兒には天候は餘程氣分に關係します。又、日光に浴すること充分ならば、新陳代謝も盛になりま

す。眼のためにも勿論直射光はつよすぎて結膜炎を

起しやすいから、避けなければいけませんけれども、光線のうすいところでは眼は著しく疲勞します。

ことに、日光は殺菌作用を著しく持つてゐます。土用干をするといふのもこのためで、衣服の表面についてゐる黴菌は短時間に殺すことが出来ます。窓から室内にさしこむ日光も力は弱くとも、また殺菌力があります。それ故、傳染病のあつた室などは、ながく、日光をいれる必要があります。

治療的效果も、日光の有する著しい力です。こにも結核に對する効果は大なるもので、かの結核性腹膜炎には日光が何よりもよくきく場合が屢々あります。この病氣を手術するのに、たゞ腹部を切りひらいて、それだけでどうもじないで、すぐまた縫ひ合せる。即ち、日光と空氣にふれさせたゞけで、よいことがあります。腺病や骨結核にも日光がよくききます。ことに光線中の一部分たる紫外線が結核には特にきくので、この線は地上に達する迄にいろいろのものに吸収されてしまひますから、なるだけ高いところ、即ち高山などでは日光の中にこの線が多く含まれてゐるわけです。

○幼児と衣服

衣服の用途は、體温の調節にあります。その他、外傷をふせぎ、皮膚を清潔に保つ(浴を著物が吸ひとるから)等のために必要で、外貌を調べるといふことも勿論です。ことに幼児に關した點を申上れば、厚著をさせないようにすることです。戸外で運動を盛にするようになれば、新陳代謝が盛ですから、あつていことはあつても、寒いといふことは決してありません。

しかし、靜かにしてゐる時、ねむつてゐる時などは、大人にくらべて、幾分多く著せればいけません。それは、子供は、身體が小さくて、したがつて、表面積が大ですから、體温を奪はれやすいのです。ことに乳兒は寝てゐることのみですから、氣をつけなければいけません。シャツの類は特に寒い地方ならば兎も角、普通の所では用ひない方がよろしいのです。首や、手足の活動をどうしても束縛いたしまし、そして皮膚を弱くして一寸でもこれをとるとすぐ風邪をひくといふようになります。

次に、寝巻ですが、これは暖めてきせない方がよろしいのです。幼稚園へ通ふぐらゐの子供は尙更です。乳兒ならば、あらかじめ暖めて著せる必要はありません。

衣服は、形をゆつくりとつて、發育を障礙せぬ様にしなければいけません。ことに附け紐などで、つよくしめつけることのないように。幼稚園期には運動はことに盛ですから、輕快といふことを第一にして、女の子であれば長い袖のものをきせることはやめなければいけません。